

* 太陽塔望遠鏡地下室と天文機器資料館の湿度について

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室の活動の中に、太陽塔望遠鏡地下の分光器室の温度、湿度管理がある。太陽塔望遠鏡は1967年に観測の役目を終えて以来、数年ののちには電気が止められていた。その太陽塔望遠鏡に電気供給が回復したのは2010年3月であった。それ以来、湿度の高い地下室に除湿機を数台導入し湿度管理をしている。どの程度管理できているかを知るために天文機器資料館の望遠鏡フロアの湿度と比較して見た。図1が、2012年のデータをプロットしたもので、青色の点が太陽塔望遠鏡地下室の湿度、茶色の点が天文機器資料館の望遠鏡フロアの湿度の値である。天文機器資料館は元自動光電子午環であり、その望遠鏡フロア(展示室)は建物の中とはいえ、ドームスリットであるから、ほとんど外気とつうつうなので外気と考えてよい。天文機器資料館の湿度の値は除湿機に付いている湿度計である。この湿度計は30~80%の間の表示しかしないことが分かっている。

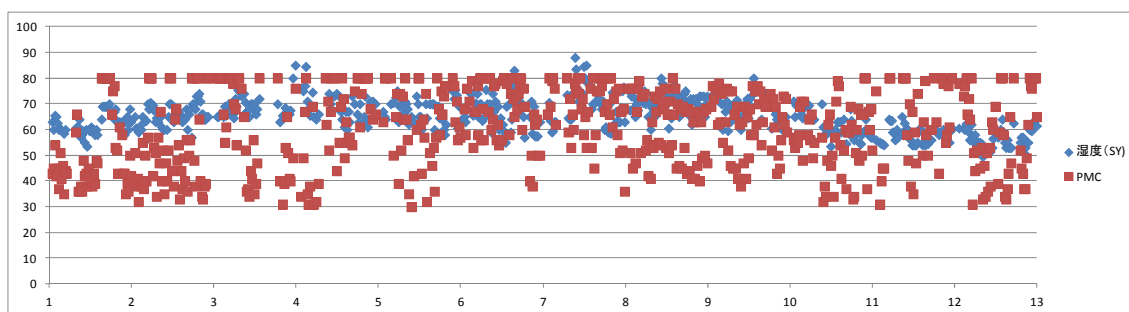


図1 太陽塔望遠鏡地下室と天文機器資料館望遠鏡フロアの湿度

図2は、太陽塔望遠鏡屋上のドーム内の除湿機に表示される湿度と、天文機器資料館の望遠鏡フロア(展示室)の湿度をプロットしたものである。青色が天文機器資料館の望遠鏡フロア、茶色が太陽塔望遠鏡ドーム内の湿度のデータである。

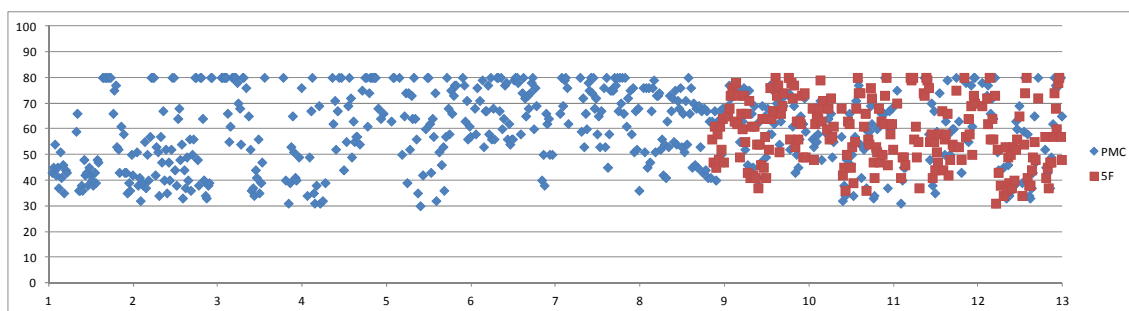


図2 太陽塔望遠鏡ドーム内と天文機器資料館の望遠鏡フロアの湿度

太陽望遠鏡ドームに除湿機を設置したのは2012年8月末であったから、同時に測定され

た期間は2012年8月末からの4ヶ月間だが、その間に有意な相違は見られない。太陽塔望遠鏡ドームは天文機器資料館の望遠鏡フロアより外気に近い状態にある。この二つのグラフから、太陽塔望遠鏡地下室は外気に比べて管理されていると言ってよいと思われる。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp